①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・10以下の数の分解，合成や，10の補数について理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・合併，増加というたし算の意味を学習している。

教材研究ノート№1-A-8

≪学習問題≫

くるまが 8だい とまっています。

3だい　くると，なんだいに　なり

ますか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

****

②見通し:加えると，10よりも大きな数になってしまう。

→10のまとまりをつくって「10といくつ」にすればよい。

②学習課題:10のまとまりになるように数図ブロックを動かして，8＋3の計算の仕方を考えよう。

③個人追究:数図ブロックで10のまとまりのつくりかたや数え方を説明できるように言葉や絵などで表す。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの計算の仕方でも同じに考えていることは何だろう？」

→「どの計算の仕方も，あとの数（加数）を分けて10になるようにしている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「たす数を分けてたしてもよいのかな？」

→「3つの数のとき順々にたしていった。」

「数図ブロックで合わせてから10といくつにしても，10にして後から合わせても，数図ブロックの数が同じになるから分けてたしてもよい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・10のまとまりをつくると，10といくつで計算しやすい。

・あといくつで10になるか考えて，後ろの数（加数）を分けて，残りの数をあわせればよい。

⑥定着･活用問題

・数図ブロックを使って，たし算の仕方をお話しましょう。

(1) 9＋4　　　(2) 8＋6

・9＋4のとき，4をいくつといくつに分けてたしたらよいのかな。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，「まとまりをつくる」考えを想起させることを通して，10をつくることを大切におさえて見通しをもたせたい。

・共同追究では，計算方法の確認にとどめず、「10のまとまりをつくると一目で数えることができた」という既習内容と結びつけて，「10のまとまりをつくるよさ」や，合成・分解を活用するよさを大切に扱いたい。

【板書計画】